

会 議 録

会議の名称	西東京市教育計画策定懇談会（第2回）
開催日時	平成15年8月22日（金） 午前10時00分から午後0時00分まで
開催場所	保谷庁舎4階 会議室B
出席者	<p>【出席委員】（座長）沼本禧一、（副座長）春原由紀、佐藤美子、石田裕子、金子矜一、田辺まさ子、細井邦夫、田口康之、高橋輝夫、渡邊一雄、下栗庸隆、村田眞昭、鶴田勝彦</p> <p>【欠席委員】北岡和彦</p> <p>【事務局】（教育長）茂又好文、（指導課長）松本秋広、（教育相談課長）鈴木三和、（生涯学習部長兼社会教育課長）高橋由行、（生涯学習部副参与兼スポーツ振興課長）富所利之、（生涯学習部副参与兼田無公民館長）島崎隆男、（中央図書館長）小池博、（教育庶務課庶務係長）白井清美、（同主任）大和田順子、（同主事）山本敏彦</p>
議 題	<p>1 西東京市教育計画（案）の検討</p> <p>2 次回の日程調整について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・2002 西東京市市勢要覧 ・西東京の教育（第5号～第10号） ・西東京市民マップ ・平成14年度教育要覧 ・西東京市学校選択制度 ・平成15年度指導課要覧 ・指導課だより（第5号～第7号） ・「学校教育が変わります」 ・東京都心身障害教育改善検討委員会の中間まとめの概要より ・西東京市教育相談のご案内 ・教育相談課資料 ・西東京市教育計画（指導課）
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発言内容
座長	<p>それでは会議を始める。前回の会議では西東京市教育計画（案）の8ページまで読んでいただいていたが、まず最初に、子どもたちの現状と課題について。</p>
松本課長	<p>今日は新たに4枚、教育計画の資料を追加して出した。前回「（案）」ということで、一番基本になるものをお渡ししたが、その中の施策をやっていくためには、現状をどう考えて、どういう課題があるかということが必要になる。</p> <p>つまり、現状とか課題の部分が「（案）」には書いていないのでその部分をまとめたものだ。現状をまとめたもの、施策の前段ということでご理解いただければと思う。</p> <p>西東京独自のものばかりではなく、東京都の事業に関わっているものもある。</p>

	<p>〔資料について説明〕</p>
座長	<p>西東京市の現状がこうあって、そのための課題がこうであるということ で、「確かな学力の育成」とか「豊かな心の育成」が出てきたのだと思う。 これからの会議の進め方について。今日を含めて6回あるが、学校教育は 今回を入れて3回、生涯学習を3回くらいでいきたい。学校教育については 3回あるわけだが、今回は内容について検討して、具体的な話をしていき たい。</p> <p>「確かな学力の育成」ということで、これは学力低下ということだが、一 人一人の子どもたちに確かな学力をつけていくということで、具体的には反 復学習ということだが、それについて説明をお願いしたい。</p>
松本課長	<p>「きめ細かな学習による基本の定着」ということで、一番基本になる読み 書き計算については、今の週5日制で学校の授業の時数も減ってきている。 意図的にドリル的学習とか家庭においての宿題等も踏まえながら、特に、小 学校段階において反復することによって確実に身につけていくと。そういう 要素があるだろうと。判断したり、考えていく力の前提にあるものなので、 今、この時期にあえてこのことを一番最初に挙げた。</p>
座長	<p>学校では、きめ細かな指導計画を作っている。読み書きについてのドリル 学習と家庭における宿題とかの勉強が少ないと言われているが、家庭におい てもドリル的な学習を推進していくと。</p> <p>少人数指導、習熟度別指導ということだが、これはT・Tも含めているの か。</p>
松本課長	<p>はい。</p> <p>補足すれば、チームティーチングというのは一つの学級を2人の教師で みるということ。例えば西東京市では、武蔵野大学の学生がアシスタント的 に入っている。複数の教員でみていくということだ。</p> <p>少人数指導については、基本的には二つのクラスを三つに分けるとい うことで、少ない人数で授業をやっていくと。相当数の学校でこういったこと に取り組んでいる。</p>
座長	<p>習熟度別というのは、その子どもの学力に応じて授業をやっていくと。 小学校の高学年における教科担任制というのは、具体的にどんな教科か。</p>
松本課長	<p>基本的に学級担任制が残っているので、2・3教科かと。一部の学校では かなり研究が進んでいる。</p>
座長	<p>それから中学校の選択教科の充実ということで。</p> <p>すでに中学校では新しい教育課程では選択教科が入っているが、さらに充 実ということか。</p>
松本課長	<p>ほぼすべての学校で、2・3年生すべてについて、選択して授業が受けら れるようになっている。例えば、5学級の学年が10コースくらいに分かれて 自分が選んだ教科の勉強をすると。</p>

座長	<p>学力向上調査というのは、基礎基本についてで、東京では新聞に出ていたのは品川区や荒川区だが、実際にはいろいろなところでやっている。</p> <p>子どもたちの学力の定着度を調査して、それに基づいて学力向上を図るための施策を考えていくためのものだ。</p> <p>外部講師の積極的活用について説明を。</p>
松本課長	<p>今、学校にさまざまな方が子どもの指導に入っている。</p> <p>ゲストティーチャーというのは、職人の方や専門的な知識を持った方が、授業で講演をされたり、具体的な知識を示していただいたり。あるいは、生き方とか進路について話していただいたり。</p> <p>アシスタントティーチャーというのは補助的、チームティーチング的な感じで、相当数学校に入っている。西東京市教育委員会では地域協力者活用事業ということで予算措置している。さまざまな効果が上がっている。</p>
A 委員	<p>この文章を読んだが、私は教育について素人なのでなかなか分かりづらかった。なにか抽象的で具体論というものがあまりない。教育計画は西東京市の教育の憲法のようなものなので、総花的になるというのは分かる。国や都の文章が網羅してあると思う。つまりマニュアルがあってこれができているのだと思う。ならば、マニュアルはマニュアルとして認め、中に西東京市独自の部分があるならば、その部分を抽出し討議していくことのほうが分かりやすいのでは。</p> <p>また、旧保谷市、旧田無市にも教育計画があったのか、あったのであればそれとの相違点を討議しては。</p> <p>もう一つ。荒川区や品川区では達成率を公表していると。そういうことを西東京市でも加味して考えているのか。</p> <p>調布かどこかの小学校で化学工場に見学に行っていると。そのように、地域の産業や企業とタイアップしていくことも含んでいるのか。</p>
松本課長	<p>「確かな学力の育成」というのは全国で共通している。その中で西東京らしさということで入れた部分は、学力向上調査について、最後の部分で「検討する」となっているが、東京都では「やる」となっている。品川や荒川では実際にやっている。西東京ではどうしていくかを今後検討していくと。</p> <p>の部分は、西東京市としては武蔵野大学とか多摩の大学と結びついてやっている。</p> <p>その先の部分のほうが、「西東京市」という固有名詞はつけていないが、文章としては平板だが、西東京の特色が入っている。</p>
座長	<p>西東京市も先進区といわれているところまでレベルアップしてから独自のものをやっていくということか。</p>
B 委員	<p>私のとらえている「確かな学力」とこの文章は違う。5 ページに「教育改革の大きな柱の一つである『確かな学力』の向上」とあるが、教育改革の大きな柱は「生きる力の育成」であって、平成 8 年に教育課程審議会から出た時には「確かな学力」という言葉はなかった。その時は「基礎基本の徹底」「反復学習」という言葉だった。それが、文部科学大臣が替わって、調査を</p>

	<p>した結果、「確かな学力」をつけようという流れになった。</p> <p>「学力とは何か」ということを本校では打ち出した。総合学習や選択教科を進めていく上での学力が足りない。分数ができない、足し算ができない、割り算ができないというようなことがある。それは小学校が悪いんじゃないくて、指導の中でどうしても逸脱していく子もいる。そういう中で、中学校で生きる力を培う授業を進めていっても、厳しいだろう。その中で、生きる力を支える学力として「知識」を学力としてとらえると。そのために読み書き計算を朝学習でやっていく。そういう形で本校はやっている。</p> <p>しかしこの文章を見ると、「確かな学力」というのは生きる力の「学力」なのか、読み書きそろばんをとらえた学力なのか、どちらか。西東京では、読み書きそろばんをきちっとやってから進むんだ、ということを出してもいいのかなと思う。</p> <p>この文章では、まずリード文で西東京市は「学力」をこうとらえる、そしてこの「学力」を向上させるためにこういう施策をやる、という流れを作らなくてはならないのでは。</p>
座長	<p>私は「生きる力」をこうとらえている。一つは、課題解決能力。知・徳・体でいえば、知。徳はここでいうと「豊かな心」。問題解決能力を身につけるためには、その基になる基礎基本が必要だ。</p> <p>私は総合学習も「確かな学力」の中に入ると思う。</p>
B 委員	<p>読み書きそろばん、これをやるために少人数だとか習熟度だとかという話になるとそれは違うと思う。</p> <p>学力向上を図るという中でやっていることは、課題解決能力を子どもたちに培っていく、勉強の仕方を学ぶ、その一番下のところがしっかりできているのかどうか、というところがねらいだと思う。だとすれば、「生きる力」を支えていく基礎基本の本当に下の土台のところの学力を西東京はつけるんだ、と打ち出して欲しい。</p> <p>その部分に外部講師が入ってくる、選択教科が入ってくるとなると、例えば選択教科では本当の基礎基本のクラスを選ぶ子、発展的なクラスを選ぶ子が出てくる。そうすると「確かな」という言葉がつくこと自体に疑問を感じる。</p>
座長	<p>つまり、西東京市の学力とは課題解決能力を身につけます、という項目があってその中に総合的学習とか...</p>
B 委員	<p>その中で基礎基本の徹底が入って...</p>
座長	<p>だから、課題解決能力という大きなものがあって、その中の一つに「確かな学力」が入ってくると。</p> <p>「確かな学力」のもう一つ上に、課題解決能力を置くと。そのためには基礎基本を「確かな学力」と考えて、そのために反復学習とか少人数をやると、そういうことになるかと。</p>
B 委員	<p>「確かな学力」を総合的にいえば、そういうことだと思うが、西東京の特色を出すとしたならば、やはり基礎基本の徹底というものをもっと出してもいいのでは。確かに「確かな学力」というのはこういう考えもあると思うが</p>

<p>C委員</p>	<p>…。</p> <p>この計画の中で「 」書きで「確かな学力」と書いてある。この概念規定を先にやらないと、話がすれ違っているような感じがするので、「 」の言葉について注釈をつけるとか。そうすれば議論の整理がつけやすくなる。</p> <p>「確かな学力」とは何だ、というのが最初に概念規定していないから、お互いにイメージしているものが少しずつずれているのではないか。「 」書きした意味が当然あるはずだから、ぜひその内容を整理していただきたい。</p>
<p>茂又教育長</p>	<p>先程質問のあった旧市の教育計画について。旧田無市ではこういうプランはなかったと聞いている。旧保谷市では5年計画で6次まで、教育の中期計画があった。それは市の総合計画の教育の分野をピックアップしてまとめたものだった。</p> <p>今回の教育計画は、地方自治法の第2条「地方公共団体は総合計画を作らなければならない」というのがあって、西東京市は新しい市なので、今作っているところで、素案もできてきて、今度の議会で議決するということまでできている。総合計画は、市長部局とか教育委員会とか区分けせず、市全体のものだ。その中に教育も入っていて、その基は教育委員会が作る。それが今回の計画を作る一つの目的。そこで、指針というようなものになるので、必ずしも具体的ではない、抽象的にならざるを得ないということをご理解いただきたい。</p> <p>小・中学校の教育というものは、沖縄から北海道の稚内まで日本全国同じようにやっている。その基礎が指導要領になっている。ナショナルスタンダードになっているわけで、そのうえで都道府県や市町村が、これを否定しない形で上積み、横出ししていくのかというのが、市の独自性になっていく。</p> <p>確かに、指導要領が改正されたときには、「生きる力」をどうはぐくむのか、それと、週5日制が第一目標だった。すると、あちこちから「学力低下」という声が上がって、遠山文部科学大臣が福沢諭吉の「学問のスゝメ」の向こうを張った「学びのスゝメ」の中で初めて、「基礎基本」が出てきた。そうした流れの中で、「確かな学力」と今言われている。</p> <p>「確かな学力」は最初は「生きる力」だったはず。それが、「基礎基本」「確かな学力」が最低確保すべきものと、変わってきたと。そんなことを踏まえて、「 」書きという表現をした。</p>
<p>D委員</p>	<p>一つ入れて欲しいのは、「読書運動の充実」だ。活字文化が薄れるところに暴力が生まれる、とよく言うし、朝10分の読書運動をしている学校の全国の統計を見ると、教室の中も落ち着いているという。市でも、乳幼児に絵本のプレゼントをしていると思うが、そういう観点から「読書運動の充実」を市内全体で展開してはどうか。</p>
<p>茂又教育長</p>	<p>これは、生涯学習の図書館のところに入っている。一昨年、「子ども読書推進法」ができた。13ページの図書館のところに載っている。生涯学習の部分で議論を。</p> <p>私たちは「子ども読書活動推進計画」を策定していく。</p>
<p>座長</p>	<p>私はどちらかというと、学校教育の部分に入れて欲しいが。</p>

副座長	外部講師の積極的活用について。学校が開かれていくということでもよいことだと思う。相当多く入っているという話だったが、全校ということか。
松本課長	全校が何らかの形でやっている。
副座長	コーディネーターというか、受け入れる側の姿勢と外部の方との擦り合わせというのは、学校内では誰がやっているのか。
松本課長	今は、人を入れるという段階で、学校として、どの授業のどの場面にどの方に入っていたかという段階に進まなくてはならない。
副座長	外部講師を入れるのは「確かな学力」のためか、それとも「特色ある学校づくり」なのか。「確かな学力」は学校で責任を持って先生の力でやっていただくものではないか。
座長	少人数や習熟度別の場合の外部講師、ととらえればよいのでは。
副座長	少人数指導や習熟度別指導というのは、教育の技術としては高度なものだと思う。学生ボランティアにそれを要求しても、そこまでの知識と技能を持っているのか。「専門性の高い教育を受ける機会」の中に学生ボランティアが入ってくるというのは大丈夫か。先生たちは、学生ボランティアの指導もしながら児童・生徒の指導もしなくてはならないのでは。
E 委員	ここでいう外部講師は、学力を支えるものとして、子どもたちの意欲とか関心とかあるいは積極的な態度とかそういうものを、勉強は楽しいという思いを、子どもたちに体験をさせると、私はこうとらえている。広い意味での学力を支えるための活用ということで、外部講師が授業の中に入ってくると。先程から出ている読み書きそろばん、基礎学力という点からはちょっと遠いが、広くとらえれば「確かな学力」につながっていくと考える。
松本課長	動機付けとか興味関心を含めたものということ。
F 委員	基礎の基礎である幼児教育は範囲に入らないのか。
茂又教育長	お役所的で申し訳ないが、西東京市には公立の幼稚園がない。すべて私立。幼稚園は、国では文部科学省の所管、つまり教育。保育園は厚生労働省が所管していて、あくまでも教育ではない。 西東京市の場合、公立はないが、幼稚園は市長部局の児童青少年部で所管している。教育委員会と全く無関係ではないので、学校によっては連携をとっているところもある。
F 委員	西東京市の教育計画というのは、教育委員会のものではなくて、全市のものではないのか。
茂又教育長	教育委員会のものとなる。

E 委員	<p>先程の「生きる力」についてだが、(1) 確かな学力の育成から(6) 学習環境等の整備まで、すべて含めて「生きる力」の育成だと。もっといえば、社会教育も「生きる力」の育成だと思っている。5 ページの「一人ひとりが輝き、活力ある学校づくり」の前文3 行の中に、「個性の尊重」「子どもたちの自主性や自律性を高める」とあるが、この中に「生きる力の育成」を入れるとか、あるいはタイトルそのものに入れるとかしてもよいのでは。</p> <p>そうすれば(1) から(6) までの施策が全部「生きる力」の育成を目指しているということになる。</p> <p>の「小学校高学年における教科担任制等の検討」について、これは、中学のような教科担任制をイメージしているのか、単純にいわゆる交換授業なのか。</p>
松本課長	<p>後段について述べるが、これは未着手ということで、中学校並みを想定はしていない。学級数の関係もあるので2 教科か3 教科…。複数の先生に接することもよいことだ。</p>
G 委員	<p>「確かな学力」ということで に読み、書き、計算等と具体的にあるが、この計画の中に具体的なことを入れるというのは少し心配があって、それが合う子と合わない子がいて、目標として出てしまうと、つらい子も出るのではないか。</p> <p>「家庭学習の励行について保護者の理解を求めていく」というのも、家庭学習ができる家はすでにやりすぎるほどやっている。心配な家庭というのは、いろいろな事情でそれ以上要求しても、もういっぱいいっぱいというところもある。そういう中で家庭にまで踏み込んで計画を立てるということは、とてもつらいのでは。</p> <p>西東京市の子どもたちを調査した結果、自己肯定感が非常に低く、「自分が好きか」という問いに、23%、ややそう思うを入れても半分くらいにしかならないようだ。これは他と比べても高い数字とは言えない。先に学力のことが入ってしまうと…。自己肯定感があって初めて人にも優しくできるし、頑張る力も生まれると思うので、そういう言葉を入れて欲しい。</p> <p>この計画は時間も日程も決まっているが、最終的に文章もこれでOK という風に私たちの中で議論があるのか、それともある程度具体的なことだけをピックアップして押さえて、後はお任せするのか。細かいところで気になるところもあるので。</p>
座長	<p>これは当然私たちで話し合っ文章は変えられる。</p>
C 委員	<p>私は、前半部分は問題点を全部出して、集約した後で、後半部分で成文の面に手をつけるという風に理解していた。最初からこれが入っている、入っていないというやり方ではなくて、これを入れて欲しい、と提案するという形でどんどん流していかないと、いちいち教育長が、指導課長が答えるというのは時間的にも厳しい。後半に締めくくるという形で座長のほうで主導して欲しい。</p> <p>この計画で触れていない問題をどうするか。例えば先程の幼児教育。幼児教育、高校教育、障害者教育、こういったものは教育計画の隣接部分なので、この場で論ずるのは本論から外れるので、最終的にそれはまとめのところで展望するという形でいいのでは。あくまでこのたたき台について議論し</p>

	ていくべき。
H委員	<p>8ページまでを読んで、ほとんどが学校生活の中で子どもたちをどうサポートしていくかということのようだが、子どもが学校に行くには学校が楽しいことが第一条件であるし、特に小学生はいい先生に当たる、と言うと失礼ですが、それがとても大きい。これを読んでいると、最終的には一人の先生、担任にかかる比重がとても大きいように思われる。</p> <p>低学年で、中学のような副担任制とか、先生を増やすような施策をとれないか。先生の質の向上だけではなく、先生一人にかかる負担を減らすことも考えなくては。</p>
座長	私は「確かな学力」育成のためには時数確保が必要だと思う。教師の資質アップも図らなくては。
C委員	今、座長がおっしゃったことは学校経営の改革、学習環境等の整備の部分で論議していければいい。
G委員	<p>「人権教育の推進」のところで、「人権問題の解決」とあるが、例えばどんな事例があるのか。いじめとか体罰とかそういうことなのか。</p> <p>道徳授業の地区公開講座というのは、なぜ道徳だけなのか。中学校の職業体験と障害者の事業所体験とはどういう違いがあるのか。</p>
松本課長	最初の質問については、具体的な事例ということではない。いわゆる人権一般について理解と解決に努めていくということ。道徳については、今は、全校公開の中に道徳を入れられないか考えている。道徳を重要視していることは確かだ。職業体験は、中学校のほうは進路指導ということをやっている。心障学級では、事業所を職業と置き換えてもさほど問題はないと思う。
副座長	学校訪問教育相談員とスクールカウンセラーとスクールピアの関係について。
鈴木課長	スクールカウンセラーは中学校全校に配置されている。小学校については、学校内の相談体制への支援ということで学校訪問教育相談員を派遣している。スクールピアはカウンセリングというよりも学校に入って児童の遊び相手、話し相手またはちょっとした相談相手をする事になっている。そこで受けた相談は必ず学校訪問教育相談員につないで、教育相談課にもつなぐ事になっている。
C委員	「豊かな心の育成」にぜひ入れて欲しいことがある。「自国の文化に対して認識を深めて畏敬の念を持つとともに、国際化の精神を涵養する」。これが「人権の花」などの人権問題より上位に位置づけられる思想だと思う。
H委員	の「健康教育の充実」で、「健康教育副読本の作成」とあるが、どういうものか。生涯にわたる健康の基礎を養えるようなものなのか。
松本課長	来年4月には子どもたちにわたるように改訂している。今使っている副読本は性教育が中心となっている。それを広げて、薬物やたばこや体力作りな

	<p>ど、心を含めて健康全体に関わるものにする。</p>
I 委員	<p>「生きる力」をはぐくむということで、読み書きそろばんというのは分かるが、必ずしもそれだけではない。昔で言えば、子どもに対して「どうやっておまへは食べていくの?」ということになると思う。今の時代は、例えばデジタルディバイドというのがある。格差が生じてしまうということで、子どもに勉強の大切さを教えなくてはならない。</p> <p>読み書きそろばんの延長で頭脳労働に就かなければならないということではないが。</p> <p>「どうして勉強しなきゃならないの?」という子どもの問いに回答を与えてあげなくてはならない。</p>
座長	<p>「豊かな心の育成」の土台になるのはコミュニケーションだと思う。それを入れて欲しい。</p> <p>西東京の子どもたちを育てていくのだから、地域との触れ合いが必要だ。</p>
A 委員	<p>異論があるかもしれないが、地域を大切にする、国を大切にするということは必要だ。家族も同様だ。</p>
J 委員	<p>問題解決能力の基になるのは「確かな学力」であり、「確かな学力」は反復学習による、とあったが、「ゆとり教育」の前にある程度は集中した学習も必要ではないか。</p> <p>旧田無市には地区会館があった。その文化祭に小学校児童の作品を展示していた。もちつき大会などに育成会を通して生徒が参加していた。こういうことを全市でやれば地域とのつながりも深まるのではないか。</p>
座長	<p>子どもたちが自分が住んでいるまちを誇りに思えるようにしなければならない。地域との触れ合いというと、どちらかというと生涯学習が主になっているように思えるが、学校が積極的に地域にかかわっていくというのは難しいのだろうか。</p>
B 委員	<p>小学校に比べれば中学校は少ないかもしれないが、それぞれの学校がそれぞれの地域にアンテナを張り巡らしている。それが組織として機能しているかということ、課題だと思う。</p>
A 委員	<p>地域を大切にする、その上で国を大切にするというのは必要だ。地域と取り組むというのはいろいろな方法があると思うが、その考え方というのはやはり打ち出すべきだ。</p>
J 委員	<p>育成会という小学校単位の会がある。田無地区は完備していて、保谷地区は作っている最中だが、その世話人に話をすると子どもに伝わる。そういう育成会をこの教育計画とリンクしていくことはできないだろうか。</p>
G 委員	<p>「豊かな心の育成」で、「人権の花」とか「人権作文」というのが最初にきているが、総合計画のほうでは「未来を担う子どもたちがのびのびと過ごすためには、子どもの権利を尊重」というのが一番にきている。やはり「子どもの権利」というのが2行目ではなく頭にくるべきではないか。</p>

D 委員	<p>人権問題の解決というのは、人と人とのかかわりの中で解決していかないと。小学校で小さいいじめを放っておいたために中学校になって大きくなってしまふこともある。花とか作文というのは象徴的なことであると思うが、人と人のかかわりの中で、解決に努めていただきたい。</p> <p>次の「動植物に親しむ活動」というのも大変よいことだと思うが、人と動物は違うので、人の命を大事にするということで、性教育などにもつなげて欲しい。小学校では、どうしたら生命が誕生するかということだが、中学校では避妊などの現実的な性教育があってもいい時代だと思う。性教育は「寝た子を起こす」という考え方もあるようだが、今の時代100%そういうことがないとは言えないので、真剣に取り組んでいかないと、特に男の子には悩みがあるようだ。</p> <p>の不登校児童・生徒への対応について。不登校傾向に対してはフリー教室と書いてある。教員を目指す学生の中に、フリー教室の教師になりたいという学生が意外と多い。フリー教室に若い先生の登用があってもよいのでは。</p>
鈴木課長	<p>不登校の児童・生徒の受け皿として、適応指導教室というのが西東京市には2カ所、田無スキップ教室と保谷スキップ教室がある。そこには、指導補助員という形で学部を卒業した方が入っている。そういう学生がいたら、ぜひ教育相談課へ電話をしていただければ…。</p>
D 委員	<p>スクールカウンセラーは1週間に1度くらい、それも短い時間しか学校にいない。民生児童委員とスクールカウンセラーの懇談をしたいのだが、なかなか見通しがない。スクールカウンセラーと地域の方のつながりができるようにして欲しい。</p>
座長	<p>「豊かな心の育成」の中に不登校へのサポートを入れるのではなく、一つの項として立ててはどうか。</p>
D 委員	<p>中学校の校長会で話題として出ているのだが、スクールカウンセラーによって解決することも多く、いい傾向にはなっている。しかし、不登校生徒は増えている。というのは、心の問題ではない不登校生徒が増えている。中学校には在籍しているが、違う教育機関を求める家庭、教育を求めない家庭というのがある。メンタルな面とは別のサポート体制を入れていかななくてはならないのではないか。</p>
座長	<p>時間になったのでここで切らせていただく。次回は「特色ある学校づくりの推進」「心身障害教育の充実」を中心にやっていきたい。 それでは、会議を終わります。</p>